

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0170202790		
法人名	株式会社 スリーコモンズ		
事業所名	グループホーム セセラぎの森		
所在地	札幌市東区東苗穂7条3丁目1番5号 (電 話) 011-785-5333		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年12月26日	評価確定日	平成21年3月5日

【情報提供票より】 (20年12月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 1月 20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	17人, 非常勤 0人, 常勤換算12.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 20,000 円 暖房費 (11~3月) 10,000円
敷 金	有 (96,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (12月 11日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	0	名	要介護2	4	名
要介護3	10	名	要介護4	4	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢	平均 81.1 歳	最低	66 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ことに共生クリニック、北海道脳神経外科記念病院、フォース歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、別法人が閉鎖したホームを引き継いで平成18年1月に開設した比較的新しいグループホームです。施設長と管理者はこれまでのサービス支援を、原点に立ち返りながら良質なサービス提供の追及に日々努めています。特に訪問看護師による健康管理は、昼食も利用者、職員に加わって食事を通した利用者の様子を観察し、適切なアドバイスが得られるほか、利用者や職員の些細な心配事も優しい接遇で解決の道を見出すなど特記に値します。更に夜間の入浴支援は同業者間でも難しさがありますが、このホームでは夜間入浴や銭湯に出掛けるなど、入浴拒否の解決に努めており、ホームの積極性が大きな特徴となっています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) 前回の評価課題では、「地域との交流・ホーム機能の還元」「市町村との連携」また、「日常的な外出の支援」など管理者を始めとする職員の真摯な対応により、多くの改善が見られます。これからは自己評価及び外部評価をもっと身近に感じながら、日常のサービスの質の向上に反映されるよう期待します。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 自己評価は職員が日常のサービスを振り返って作られています。評価時のみでなく日常的、かつ計画的な取り組みを行なうため、改善計画シートの採用により、具体的な着手を期待するとともに、運営推進会議にも進捗状況を知らせるなどホーム一体となった改善への取り組みを期待します。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 前年の不定期な会議の開催が改善され、メンバーの理解と協力をいただいて、現在は2ヵ月毎の開催が守られています。今後は、ホームの状況報告はもとより、利用者が地域の方々とともに暮らせる方策や、災害時の避難に対応した協力要請、また、評価への取り組みについてモニター役を担ってもらいながら、サービスの質の向上に向けた柔軟な取り組みを期待します。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 利用者の状況は、「せせらぎ通信」で利用者の表情がとても良く理解できることで家族の安心をいただいています。また、家族からの意見や要望などは、専ら家族の来訪時や電話で受けることとなりますが、職員は受けた内容は必ず連絡ファイルに記載して、職員全員が共有できるシステムとなっており、ホーム運営に反映させています。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 町内会に加入し地域の行事には積極的に参加しています。行事の際はホーム利用者専用のテントを設営していただくなど、理解のある支援をいただいています。ホーム前の小学校とは特に深い交流が築かれており、学校の花壇清掃を利用者と生徒が一緒に行ない、また発表会への招待や生徒から手作りクッキーのプレゼントをいただくなどの交流が続いています。これら一連の地域との交流を通して、利用者の暮らしに潤いをもたらすよう管理者及び職員の努力が続いています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中であって、利用者の一人ひとりが少しでも豊かな暮らしができるよう、サポートする職員の気構えは窺い知ることができますが、現在の理念には地域性を伝える文言がなく、ホームの利用案内書にも見い出すことができません。	○	管理者及び職員は、従来のホーム理念を修正して地域に密着したサービスを謳いながら、より身近なものに変えるべく検討に入っています。新たに創られる理念が、職員が日常行なうサービスの根幹となり、また、地域への啓発に資するよう取り組みが期待されます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、理念についてユニット会議の際に改めて確認をしあいながら、日々のサービスの提供に反映されるよう努めていますが、徹底には至っていません。	○	新しい理念作りを契機として、職員間で理念の共有を図りつつ、サービスの質の向上に向け実践されるよう期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しながら、地域の行事には積極的に参加しており、会場ではホーム利用者用に専用テントの設営もしていただいています。ホーム前の小学校との交流は盛んで、少学校の花壇清掃を生徒と利用者がともに行ないます。生徒のホーム訪問も頻繁に行なわれ、手作りクッキーのプレゼントもあるほか、幼稚園のお遊戯会にも招かれるなど、地域とのつき合いが広がっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で取り組み課題となった「地域との交流・ホーム機能の還元」「市町村との連携」また「日常的な外出支援」などは積極的な取り組みにより改善されています。また、自己評価の作成も職員全員が参加して行なわれていますが、自己の振り返りなど、日常のサービスには十分に反映されていません。	○	ホーム自体がレベルアップしなければならないなかで、職員全員が等しく評価の意義と活用の理解が必要であり、日常のサービス提供の質の向上に資するよう、実践面での取り組みに期待します。

札幌市東区 グループホーム せせらぎの森

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年まで不定期な会議の開催でしたが、改善されており、現在は2ヵ月毎の定期開催となっています。メンバーの理解をいただきながら、内容も充実しつつあります。これからは評価への取り組みや災害時の地域対応など幅広く、また、柔軟なテーマを持ちながら進められるよう現在検討が進められています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の制度や生活保護などの制度運用のアドバイスをいただきながら、行政の担当窓口とは連携に広がりを見せています。ホーム側も利用者の状況や空き情報などの提供を行ないながら、サービスの質の向上を目指しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎週、家族のもとに送られる「せせらぎ通信」は、利用者一人ひとりの写真を満載して作られており、オリジナル性に富んだものとなっています。紙面では表情豊かな写真に加えて、職員の言葉も添えられて家族の安心と信頼をいただいています。また、金銭管理の報告も領収書を添えて行なわれています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的な電話連絡での家族の意見聴取と、家族の来訪時を利用して意見や要望を聞きながら、ホーム運営に反映するように努めています。口頭での意見なども、忘れずに連絡ファイルに記録する習慣となっています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのサービス提供と支援は、担当者が決められて馴染みの中で行なわれますが、管理者は職員全員が気配りできるよう努めています。退職など職員の異動に際しては、利用者への影響を軽減するためのフォローやバックアップを手厚く行なうなどしています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長が行なうユニット会議を利用した内部研修のほか、外部研修には可能な限り参加して、個々のスキルアップの機会確保に努めています。職員も資格取得への意欲が強く、ホームでは職員の協力を得て、シフトへの配慮をしながら支援が行なわれています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の管理者会議の中で、交流を図るべく協議が重ねられています。クリスマス会には利用者と職員が、ほかのホーム訪問を行ない、また、訪問してもらうなど相互交流によるレベルアップが図られており、ネットワーク作りが進められています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者にはできる限り事前にホーム訪問をしていただき、安心と納得した入居ができるよう努めています。在宅からの場合は管理者などが自宅訪問をして、これまでの暮らしの概要を把握しながら、ホーム生活に役立てているほか、入居後は暫定プランにより、ゆっくりと馴染んでいただくなど配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の個性や特徴に合わせた支援を心掛けていますが、担当する職員は利用者から暮らしの知恵を教わることも多く、お互いが支えあう関係を大切にしながら、暮らしが単一的にならないよう気配りをしています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向の把握は、日常の些細な会話の中で、また、表情で的確に把握するように努めています。困難な場合は家族の協力をいただきながら、利用者本位に検討を加えており、情報は職員全員が共有することになっています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	一部センター方式の様式を採用していますが、ホーム独自のアセスメントシートにより、当面する課題やケアのあり方及び方向付けを介護計画に反映しながら作成されております。ユニット会議では担当職員だけでなく、職員全員が、利用者本位の支援が行なわれるよう意見交換を重ねています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは期間を3ヵ月として行なわれますが、利用者の状況の変化によっては医師や看護師の意見を参考に、利用者と家族を交えた話し合いで現状に合った介護計画が作られています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の事情や要望を考慮しながら、病院への送迎や買物など、ホームの多機能性を活かした柔軟な支援が行なわれています。また、利用者の要望に応じて銭湯、日帰り温泉、外食などの支援も行なわれています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前は利用者のかかりつけ医がおり、受診が行なわれていましたが、現在ではホームの協力医がかかりつけ医となって隔週の往診、また、訪問看護師による週1回の訪問と、医師との連携により、24時間の対応が可能となって、日常の健康管理への支援が行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の契約に際して、利用者と家族に看取りの対応方針について説明し、同意書を交わしています。終末期を迎えた段階で医師と家族の度々の話し合いを持つこととしています。これまでホームでの看取りの実例もあり、方針に沿った対応が行なわれています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者及び職員は、利用者のプライバシーや誇りを尊重しつつ、言葉掛けや声の高さなどに気配りをしています。家族からは個人情報に関する同意書をいただいて、対応しているほか、書類の管理徹底に努めています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての大まかな一日の流れはありますが、それにしばられることなく、利用者一人ひとりの暮らしを大切に、ゆったり、のんびりと利用者のペースで過ごせるよう支援をしています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせた食事の準備、盛り付け、下膳や食器洗いなどの役割りを楽しんでいます。食事は利用者の希望の献立も取り入れられ、職員も一緒に会話を楽しみながら食事しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間は決めておらず、毎日何時でも入浴できるよう準備されています。夜間入浴も職員のシフトを変更して可能にしています。入浴をいやる利用者には夜間入浴が効果をもたらすほか、銭湯にも出掛けて入浴を楽しんでいます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームでは、役割りや楽しみごとを通した張り合いや喜びのある暮らしを支援するため、試行錯誤を繰り返しています。過去的生活歴から、一人ひとりの取り組みそうな役割り、楽しみごとを見出しながら実践されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームでは夏季、冬季では外出頻度に差はありますが、可能な限り外出の機会を設けて閉じこもりを防止する姿勢は強く感じます。天気の良い日は散歩を重点にしているほか、毎月2回のユニット全体の外出レク、希望者によるドライブ、公園ハイキング、温泉ツアーなど、多くの企画により外出の支援をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は、玄関、ユニットなどの施錠はしていません。ユニット間のドアにはセンサーによるチャイムが鳴り、外来者や利用者の動向も察知でき、安全の確保をしています。		

札幌市東区 グループホーム せせらぎの森

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	都合により、例年行なわれている災害などの避難訓練は、今年度まだ実施されていません。また、地域の住民に対する緊急時の協力量など十分に行なわれていません。	○	万一に備えた避難訓練、特に職員が少ない夜間を想定した避難訓練は必須であるため、消防署の協力をいただいて、早急な取り組みを期待するとともに、緊急時に際しての近隣住民の協力量などへの取り組みも合わせて期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状況にマッチした食事の量や水分摂取量がチェック表で管理されています。献立も職員が利用者の希望を取り入れながら作られていますが、栄養バランスやカロリーに対するチェックが十分とはいえません。	○	献立には、彩り、食べる量など食欲が湧くような職員の配慮がありますが、定期的に管理栄養士の指導をいただくなど、よりバランスの取れた食事の提供ができるような取り組みを期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が食事の準備や後片付けなどに参加しやすい対面式のキッチンがあるなど、利用者と職員の触れ合いに配慮がされています。また、清掃には最大限の気配りが視えます。一方のユニットでは構造上の都合で、利用者が集う居間に窓がなく、壁を利用した季節感の飾りつけも少ないなど工夫が必要です。	○	窓のない閉塞感を少しでも和らげる方法を管理者及び職員は思考されていますが、少しでも開放感に繋がる工夫(例えば青空模様の壁紙や擬似的窓の造作など)の取り組みに期待します。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用が決まる際には、利用者や家族と居室のレイアウトなどを相談して、使いやすい居室作りをしています。机や椅子、ソファ、仏壇、また、若かりし頃の免許や写真などが飾られ、居心地良く過ごせる居室への配慮がされています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。